

野外でトリを見わかる楽しさ

「トリがいる」ことはわかっても「トリの名」がわからない、という人がいます。一瞬の姿や鳴き声で何の種類かを識別し、さらに双眼鏡でこまかい違いや珍鳥を記録したりする、なれた観察者とまではいかないにしても、私たちは、野外を自由に飛ぶトリを観察し、種類や名前を知る楽しさを持ちたいもの——そこで今月は、その心がまえをお話しましょう。

まず身近なトリから、見わけの基本となるトリをよく観察しましょう。たとえばスズメやカラス、ムクドリなど、自分の身近にいる野鳥をよくおぼえておき、新しいトリに接したとき、スズメとくらべて大きいか小さいかといふうに、比較の基準にします。庭に来る野鳥を毎日観察するなどはいい方法の一つです。

見どころを早くつかむ・どんなトリでもそこを見たら名前がわかるという特徴を持っていて、クチバシ、色、動き、歩き方、鳴き声など見わけのポイントをつかんでしまえば、面白さ、楽しさも増してきます。

トリを驚かさない、不用意な動作や物音を出して、トリを驚かして飛び立たせてはいけません。野鳥がヒトにとって遠い存在であるというのも、草花や昆虫のように身近に見られないからで、それはまた、いままであまりヒトがトリをおどしてきたからなのです。トリは動くものに対して警戒しますから、トリがいたら、こちらはじっとして動かず、それから静かに近寄ったり、そっと双眼鏡で観察するようにします。

場所で違うトリ・どこでそのトリを見ましたか。山？海？——山なら林ですか、岩場ですか、草原ですか。林なら落葉ですか、常緑ですか、針葉樹ですか。木の上の枝ですか、下草の中ですか。海だって、波の静かな内陸の岸近くか、波の荒い岩の多いところかで、なんているトリの種類も違ってきます。——さあ、いまは夏鳥の季節、あなたも観察をしてみませんか。



ヒトの中の「トリ」の保護区。

財團法人日本鳥類保護連盟
サントリー株式会社

この広告は、財團法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、
サントリー株式会社がシリーズとして制作するものです。



● 野鳥を見わかる楽しみ

カッコウ 全長35cmほど。ハト大。尾は長め。飛んでいたと小形のカラスのよう見える。頭から胸に灰色地強く、下面に細い模様。夏鳥として渡来。カッコウ カッコウの鳴き声は夏の風物詩でもある。

サンショウトリ 小さな冠羽のある尾の長い鳥。全長約44cmあり、子17cm強。その尾はとても長く、一見して判別できる。尾と頭から胸にかけて紫黒色、背は赤茶色、腹の周囲はコバルト色。ツバヒホシ ホイホイ音の明るいさえずりは有名。

キセキレイは腹部全体が黄色。セグロセキレイは頭部から背面、胸にかけて黒色で、下面は白色。鷹似するハクセキレイの頭は白色。ジジ、ジジと低く渋た声で鳴く。ゴイサギは指背で黒っぽく、足は黄色。クワッ、クワッと一声ずつ切って、飛びながら鳴くことが多い。